

図 3：脳と自由エネルギー原理（3）

#3.13

運動野から

「運動するとこのような筋感覚信号が観測されるはずだ」という
「筋感覚の予測信号」が出力され、
それが反射弓に伝わり筋収縮を起こす。

反射弓では、

「 α 運動ニューロン」が

筋感覚の予測信号に合致するように筋肉を制御する。

これが「運動」の仕組みである。

to #3.6

#3.14

運動において、

脳は認識確率分布 $q(u)$ は変動させないままで、
想定された状態 u における

感覚信号 s を再現させようとしている。

感覚信号 s が再現された場合、

感覚信号 s が観測される確率 $p(s)$ が向上する。

これは感覚信号 s を脳が

「生成モデルとしての認識確率分布 $q(u)$ が

正しいことを示す証拠」として利用していると解釈できる。

#3.15

運動により脳は

「自己証明」している

(=「能動的推論」)。

#3.16

運動により $p(s)$ が向上すると、

ダイバージェンスを減らすことができ、

変分自由エネルギーを小さくすることができる。